

塾生
募集

アーティストが地域に入り、観察して、そこでしかない作品を構想する力を瀬戸内国際芸術祭の手法から学ぶプログラムです。

瀬戸内アート塾

—— 瀬戸内国際芸術祭若手芸術家育成プログラム ——

瀬戸内国際芸術祭の会場となっている島々を舞台に、地域型芸術祭の潮流を知る座学から、

地域のフィールドワーク、観察や発見を作品構想までつなげて思考します。

講師や参加者との対話でアイデアが深まる数日間を体験しませんか。

概要

【開催期間】 2023年8月19日(土)～8月26日(土)計8日間

【募集人数】 15名程度

※応募者多数の場合は選考を行う可能性あり

【受講料】 3万円(税込み)

※高松での宿泊(8/19、20)・食事及び交通費は各自で実費負担(各自手配必要)

※小豆島行程の宿泊(8/21～8/25)・食事は受講料に含む(各自手配不要)

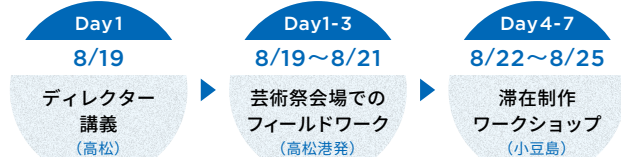
【参加条件】

39歳以下で香川県内において制作活動を行っている又は今後希望する方。

【応募想定】

芸術活動(美術・音楽・舞台・建築・デザイン・食)又は芸術作品の成立にかかわる活動を行っている方(始めようとする方)で、瀬戸内国際芸術祭をはじめとした地域型芸術祭が掲げる趣旨を理解し協働する意識のある方

プログラム内容



※8/26はクロージング

応募方法 下記QRコードから必要事項を入力しご応募ください。

受付期間：2023年7月19日(水)～8月7日(月)

必要事項

- 基本情報(氏名、性別、連絡先等)
- プロフィール(600字以内)
- 参加動機(将来目標/800字以内)
- 参考資料 ※任意(PDF形式/A4サイズ5枚以内/100MB以内) ※映像不可



講師



photo by Mao Yamamoto

北川フラム(アートディレクター)

1946年新潟県高田市(現上越市)生まれ。東京芸術大学美術学部卒業。アートによる地域づくりの実践として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(2000～)、「瀬戸内国際芸術祭」(2010～)、「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス」(2014、21)、「北アルプス国際芸術祭」(2017、21)、「奥能登国際芸術祭」(2017、21)で総合ディレクターをつとめる。



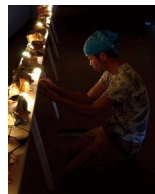
豊福亮(アーティスト)

1976年東京都生まれ。2000年株式会社OfficeToyofuku創設、千葉美術予備校創立、学校長就任。美術に関わる人材の育成に取り組む一方、芸術祭を中心として自身の作品を展覧。大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ(2006、09、12、15、18)、神戸ビエンナーレ2007、瀬戸内国際芸術祭(2010、13)参加。



村山悟郎(アーティスト)

1983年東京生まれ。博士(美術)。東京芸術大学油画専攻にて非常勤講師。東洋大学国際哲学研究センター客員研究員。自己組織的なプロセスやパターンを、絵画やドローイングをとおして表現している。あいとりエンナーレ2019、瀬戸内国際芸術祭(2019、22)参加。



南条嘉毅(アーティスト)

1977年香川県生まれ。2002年に東京造形大学研究科(絵画)を修了後、東京都と和歌山県を拠点に活動している。奥能登国際芸術祭では廃業となった映画館の天井から、長い歳月をかけて堆積し、能登半島を形成してきた珪藻土を降り積もらせる体験型の作品を展示した。越後妻有アートトリエンナーレ2012、奥能登国際芸術祭(2017、20+)、瀬戸内国際芸術祭(2019、22)参加。

【問い合わせ】

瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局

〒760-0019 香川県高松市サンポート1番1号高松港旅客ターミナルビル3F

Mail: setouchiartclass@gmail.com Tel: 087-813-0852

主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会

事業運営：株式会社アートフロントギャラリー、NPO法人 瀬戸内こえびネットワーク、Office Toyofuku

協力：小豆島町、公益財団法人福武財団